

啓 蟄

令和5年3月7日 No. 41

学校教育目標

深く考え、心豊かな、
思いやりのある たくましい子

令和4年度も残すところ2週間あまり ～ 卒業・進級に向けて ～

3月は『去る』と言われるように、時は足早に過ぎていきます。先月末からインフルエンザが蔓延したことによる学年閉鎖により、予定していた授業参観・懇談会も中止の措置を講じました。ご理解とご協力をいただきありがとうございました。先週末から再登校がはじまり、新たな罹患もようやく減少し、いつもの学校生活に戻りつつあるように感じています。

さて、卒業証書授与式・修了式まで、残すところ2週間あまりとなりました。この限られた時間を有効に使い、子ども達一人一人が悔いのないように学年の総仕上げを行い、気持ちを新たに中学校に入学したり、上の学年に進級したりできるように準備をしてほしいと思います。

ここで、今年度の卒業証書授与式・修了式の概要についてお伝えします。

3月24日（金）は1～5年生は通常登校、6年生は、9:45～10:00の登校となります。

卒業証書授与式について

式場（体育館）には卒業生、5年生、保護者（各家庭2名程度）、教職員の入場を予定しています。1～4年生は、各教室からオンライン中継で参加できるようにしていきます。

式自体を昨年度と同様に短縮する形で行い、30分程度を見込んでいます。

また、マスクの着用については、式場に入場する児童・教職員は、基本マスクを外すように考えています。保護者の方は、マスクの着用をお願いします。なお、マスクを着用するのは、国歌・校歌斉唱の場面と卒業生の合唱の場面を考えています。もちろん、マスクを外すことを強制するものではありません。

これまでの対応と異なるため、戸惑う児童もいるかと思いますが、どうぞご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

修了式について

修了式は、1時間目の8:30～8:40の時間帯に校長室で行い、各学年1名の児童が代表して修了証書を受け取ります。各学級では、この様子をオンラインで視聴することで参加します。短い時間での実施になりますが、子ども達が、気持ちを新たに一年間を締めくくることができるよう努めてまいります。

今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大に大きな制約を受けたり、制限を余儀なくされたりの一年でした。それでも、皆様のご理解とお力添えをいただきながら、教育活動を進めることができました。子ども達にとって、残りの2週間が有意義で思い出多いものとなるように努めてまいります。今後とも、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年度2回目の学校運営協議会を開催しました



～地域と共にある学校を目指して

3月1日（水）に第2回学校運営協議会を開催しました。今回は、1回目の会議を受け、『目指す子ども像』の策定を中心に進めました。

まず、令和4年度の学校評価結果の説明の後、保護者評価にある「本校の児童は主体的に表現することができていない」に着目し、目指す子ども像の熟議に入りました。目指す子ども像に関する熟議の概要は以下の通りです。

今の子どもから見えてくる傾向（本校児童ではなく子ども全般に言えること）

- 人の痛み、されたら痛いことが分からない、育っていない傾向がある
- 学齢や発達段階に応じて ⇒ 善悪の判断をつけられるようにする
 - ⇒ 挨拶や返事ができるようにする
 - ⇒ 与えられたものはできるが、自分で考えてできるようにする
 - ⇒ 自己指導能力（どれをどのようにすればこうなるといった予測）を身に付けられるようにする など

上記のことが考えられる背景

- 社会や家庭の環境が大きく変化している
- 大人同士のつながりが希薄になっている
- 子ども達が生活の中でする経験値が少なくなっている など

こんな子どもになって欲しい（思い）

- 自分を大切にする子ども
- 0（ゼロ）からは難しくても、1つ2つのヒント（きっかけ）があれば、自分で考え、自分で行動できる子ども

主体的な表現にもつながるコミュニケーション能力の育成が大切であるとの思いから

森の里小CS（コミュニティ・スクール）目指す子ども像

明るく あいさつ・会話ができる子ども

- ⇒ それぞれでできること（現在、実施していることもあります）
- 学校支援地域本部：青連協・生涯学習等で連携し、『おまつり』や『もちつき』などの行事
- 森の里小地区ミズナラくらぶ（どんぐりの森）：ものづくりを通して経験値を上げる
- 森のくまさん見守り隊：朝の挨拶、子ども達との会話
- 図書ボランティア：月一回の朝の読み聞かせ、お話会の開催、昼休みなどの読み聞かせ
- PTA：PTAボランティア活動の継続
- 学校：昭和型の一斉授業から令和型の主体的・対話的な授業の構築

上記のような視点から、地域と学校が連携協働しながら、子ども達の健やかな成長に関わっていくことを確認しました。次回（令和5年度1回目）は5月中に開催予定です。

委員の皆様、お忙しい中、本当にありがとうございました。

後記

今号の標題「啓蟄（けいちつ）」（二十四節気のうちの一つ）は、大地が温まって、冬ごもりから目覚めた虫が、穴をひらいて顔を出す頃をいいます。「啓」はひらく、「蟄」は土の中にとじこもっていた虫（蛙や蛇）という意味で、ひと雨ごとに暖かくなり、日差しも春めいて、生き物が再び活動し始めます。